

5. 今月のトピックス 「キャベツ菌核病について」

◆キャベツ菌核病とは？◆

キャベツ菌核病は、カビ(糸状菌)の一種である *Sclerotinia sclerotiorum* が原因で発生する病害です。本菌はキャベツを始め、レタス、ナタネ、キュウリ、イチゴなど、非常に多くの植物を侵して発病します。キャベツは特に侵されやすく、しばしば多発して問題となっています。



図. キャベツ菌核病による病徴(左図 三重県農業研究所原図)

◆病徴と被害◆

結球開始期頃から発生し始め、初めは下葉の葉柄基部近くに水浸状の病斑が形成されます。病斑は次第に拡大して結球部まで進展し、結球部全体が汚灰白色に腐敗します。葉をめくると白色綿毛状の菌糸が密生しており、その中にやがて黒色のネズミ糞状の菌核を形成します(図)。

病徴はキャベツ軟腐病と似ていますが、本病は軟腐病のような悪臭がなく、白色綿毛状のカビが生え、菌核を形成する点で異なります。

◆病原菌の生態と感染経路◆

病原菌は菌核の形で植物残渣とともに土壤に混入し、伝染源となります。菌核は土中で数年間生存することができます。春(3~5月)もしくは秋(9~11月)に、気温20℃以下になると子のう盤という小さなキノコ状の器官を作り、そこから胞子が作られます。胞子は雨滴や風によって飛散し、植物体に到達します。

◆発生しやすい条件◆

本病菌の生育適温は20℃前後であり、また多湿条件で発病しやすくなります。

◆防除対策◆

(耕種的防除)

- 1) 連作を避けましょう。また、本病が発病する作物(アブラナ科、キク科、ウリ科、バラ科など)との輪作はやめましょう。
 - 2) 栽培終了後、もしくは夏季に1か月程度湛水し、菌核を死滅させましょう。
 - 3) 発病した茎葉は菌核が生じないうちに抜き取り、圃場外で処分しましょう。
 - 4) 排水不良は本病の発病を助長するので、排水対策を行いましょう。
- (薬剤防除)
- 5) 外葉が地表面を覆う前に、葉裏や株元に届くよう、丁寧に薬剤を散布しましょう。
 - 6) 降雨は発病を助長するので、雨が続くと予想される場合は、予防的に薬剤を散布しましょう。
 - 7) 耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けましょう。